

相談室日誌  
車中生活からの再起

第5回

医療ソーシャルワーカー 川合 優

残暑厳しいある日、車中生活をしていた A さん（50 代男性）が脱水と低栄養状態で救急搬送されてきました。意識はあるものの、話をするのがやっとで、足は日差しで火傷をしており歩行もままならない状況であったため入院となりました。

A さんは隣県で長年生活してきました。幼いころから家庭の収入は少なく、生活保護を受給していた時期もあったそうです。中学卒業後、収入の少なかった両親を支えるため働きにでて、運転免許が取得できてからはトラック運転手として長年働いてきました。両親を経済面で支え、一生懸命働いてきた A さんでしたが、最近仕事も減り、自身が生活していくのがやっとという状況でした。5 月下旬に一人暮らしをしていたアパートの家賃を 3 ヶ月分滞納したことで大家から退去するよう言われ、車での移動生活が始まりました。しかし、あつという間に所持金も底をつき、遂に金沢の港付近でガソリンもなくなり移動できなくなりました。それから 1 カ月半近く、車中での生活をしながら、釣り人からチョコレートをもらったり、飲料水をもらったりしながら飢えをしのいでいました。空腹に耐えきれず雨水を飲んだ時に動悸が止まらなくなり、「これで俺の人生も終わりだな」と思ったそうです。時々巡回に来る警察官から「ずっとこんな所にいても駄目だよ。地元に戻りなさい」と言われたものの、

帰る手段もお金もない状況で途方にくれていました。そして、遂に動くこともできない状況となり、見かねた警察官が、市役所の生活保護課に電話。とりあえず病院に搬送するよう言われ、警察官が救急要請し当院に搬送となりました。

入院 3 日後、脱水症状も改善し退院可能となったため、信頼できる不動産に無理言って、すぐに入居できるアパートを提供してもらい退院の運びとなりました。生活保護が決定するまでの生活費を借りるために、翌日ソーシャルワーカーが同行で社会福祉協議会にも行き、当面の生活費は確保できました。

警察、市役所、病院、不動産会社が良い形でネットワーク機能を発揮し、社会資源の活用によって A さんの命は救われました。しかし、A さんの生活はこれからです。「1 カ月以上も失踪していたのに、誰からも捜索願いが出ていないってことは、俺は誰からも心配されていない人間なんだな」とつぶやいた A さんの言葉が、A さんの生きてきた人生を物語っているように感じました。孤独を感じながらも、人との繋がりを求めて生きてきた A さん。ソーシャルワーカーから「まつもとてい」を紹介し、昼食会にも参加してもらうこととなりました。「まつもとてい」への参加が、再スタートを切る一歩になればと思っています。

2012.11.1 autumn

「医療にめぐまれない人々に、安くて親切な医療を、はたらく人々が安心してかけられる診療所を」  
～ しろがね診療所開設から 63 年 ～



城北病院 院長 大野 健次

歴史的に暑かった夏も終わり、秋風の心地よい季節を迎えましたが皆様いかがお過ごしでしょうか。城北病院は 1949 年戦後の混乱の中で、医療制度が十分ではなかったところに、「医療にめぐまれない人々に、安くて親切な医療を、また、はたらく人々が安心してかけられる診療所を」という願いに応える診療所として、城北診療所の前身であるしろがね診療所として開設されました。建設資金は、賛同する支持者や地域住民によって準備されました。設立主体からいうと、「国公立」や「私立」でなく「住民立」の病院であるといえます。私たちは、設立当初から、患者様・地域の人々が参加（資金的参加も含めて）する、患者様・地域の人々による（運営への参加）、患者様・地域の人々のための病院であると、自己規定しています。病院としては 1962 年に 27 床の小さな病院として出発し、増床を繰り返し 1973 年に 157 床、1987 年 250 床、2007 年に 314 床の現在の規模になっています。当院の特色は、DPC・7 対 1 看護の一般病棟、回復期リハ病棟、医療型療養病棟、介護型療養病棟、亜急性期病棟、救急室の隣に 5 床の救急病棟と多彩な病棟構成になっている事だと思えます。これも、地域に必要な病院として住民の要求に応える形で変化発展させてきた結果だと考えています。

城北病院はこの京町で半世紀、住民にささえられて大きくなってきましたが増床を繰り返してきたため、古い建物と新しい建物が混在しており現在の南棟は 1969 年、西棟は 1981 年の建物で耐震にも問題があり現在の医療活動とは乖離し矛盾が生じてきています。今後もこの地を離れることなくこの地で医療活動が継続できるようリニューアルをしたいと思い、リニューアルプロジェクトを立ち上げてリニューアル準備を始めました。リニューアルプロジェクトには地域分析チームや高齢者、終末期分析のチームなどがあり、若い医師達が中心となってリニューアルを進めていくこととなりますが、なにかご意見がありましたら遠慮なく当院までお寄せください、今後ともよろしく願いいたします。

私たちがめざすもの 医療福祉宣言

- 1 患者様の立場に立つことを大切にします。
- 2 患者様への情報提供と合意づくりに努めます。
- 3 安全安心の医療・福祉の提供に努めます。
- 4 安心して住み続けられるまちづくりに努めます。
- 5 人権を守り無差別平等の医療・福祉を目指します

発行

城北病院 医療福祉連携相談室  
〒920-8616 金沢市京町 20-3  
TEL 076-251-6111 FAX 076-252-1677  
HP <http://www.jouhoku.jp>  
E-mail [renkeisitu@jouhoku.jp](mailto:renkeisitu@jouhoku.jp)



みなさまこんにちは、城北病院外科の三上和久でございます。専門は消化器外科で、中でも腹腔鏡手術を得意としています。今回は、当科で積極的に取り組んでいる腹腔鏡手術をご紹介します。

当院での腹腔鏡手術の対象疾患は下記の表の通りです。最近では胃癌の7割、大腸癌の8割、胆石胆嚢炎の9割、虫垂炎と鼠径ヘルニアは全例を腹腔鏡にて手術を行っています。



三上 和久  
日本内視鏡外科学会  
技術認定医

腹腔鏡のメリットは傷が小さい、痛みが少ない、イレウスなどの合併症が少ない、早期の食事や離床が可能で早く退院ができるなどの「低侵襲性」が有名だと思います。確かに傷は小さく、翌日には歩行や飲水が可能で、術後在院日数は胃癌・大腸癌で8~10日、虫垂炎・胆嚢炎・ヘルニアでは2~3日となっています。しかし私が強調したい腹腔鏡手術の最大のメリットは、「精細でクオリティの高い手術が可能」であることです。腹腔鏡は拡大視効果がありますので、開腹手

術の肉眼では認識困難な微細な外科解剖が、ハイビジョン腹腔鏡では大きく拡大して詳細に認識することが可能です。よく見えるために確実な癌に対するリンパ節郭清を施行でき、出血も少なく抑えるなどの、クオリティの高い手術を行うことが可能なのです。

以前の腹腔鏡のイメージは、「難しい・時間がかかる・大変」というものでしたが、最近では従来の開腹手術の方が「見えづらい・精細な操作が困難・面倒くさい」というマイナスの印象を受けます。腹腔鏡手術の方が、楽に、早く、きれいな手術が可能になると確信しております。なお私は、日本内視鏡外科学会の技術認定医という資格を持っておりますので、安全で安心な腹腔鏡手術をご提供できると思います。

当科の腹腔鏡手術は、癌などの待機手術だけではなく、急性虫垂炎・胃十二指腸潰瘍穿孔による腹膜炎・



拡大視効果で微細な外科解剖が詳細に認識

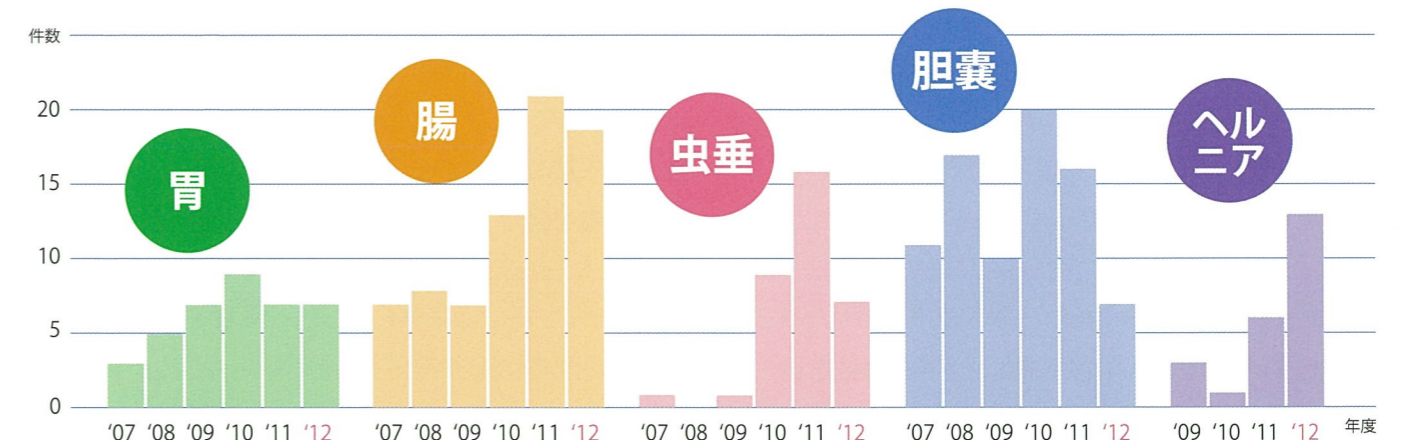
急性胆嚢炎などに対する緊急手術にも対応しております。このような腹腔鏡手術が必要になる患者さまを、是非ご紹介頂きたいと思っております。傷が小さいだけではなく、精細でクオリティの高い手術を提供させて頂きたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

■ 城北病院で施行している腹腔鏡手術

胃切除	幽門側胃切除 胃全摘、 噴門側胃切除 胃部分切除
結腸切除	回盲部切除 右半結腸切除 左結腸切除 S状結腸切除
直腸切除	直腸高位前方切除 直腸低位前方切除 直腸切断術
小腸切除	小腸部分切除
腸閉塞手術	
ヘルニア修復術	鼠径ヘルニア 大腿ヘルニア 閉鎖孔ヘルニア 腹壁癒痕ヘルニア
虫垂切除術	
胃十二指腸潰瘍穿孔に対する大網充填・腹腔ドレナージ術	
胆嚢摘出術	



■ 部位別 腹腔鏡下手術件数の推移



\*ただし2012年度は4月から9月の半年間の数

INFORMATION

在宅リハビリ研修会「症例から学ぶ在宅呼吸器リハビリテーション」

講師：城北病院リハビリテーション科 科長 廣瀬辰巳（理学療法士・呼吸療法士）  
開催日時：2012年12月8日（土）14時から16時  
開催場所：城北クリニック 多目的室 金沢市京町 20-50  
参加対象者：訪問看護ステーション看護師  
募集定員：25名

【申込先】 FAX 076-252-1677（連携室：山本・野村）

